



# 佐野日本大学短期大学学報 か た く り



ACCREDITED  
2012

本学は平成24年度(助)短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格と認定されました。

発行/佐野日本大学短期大学 栃木県佐野市高萩町1297 電話(0283)21-1200



## 年 頭 の ご 挨拶



## 多様性と相互理解を力に

理事長 長谷川 弘

新年あけましておめでとうございます。旧年中は本学園に対し格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。本年も昨年同様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。

さて現在、「世界をひとつに」という発想のもと進められたグローバル化は、富の一極集中と経済的な格差の拡大をもたらしています。その結果、経済的繁栄に取り残された人々を中心に保護主義や移民排斥などを政治的に要求する動きが急速に強まり、米国の保護主義的政策やイギリスのブレグジットに象徴されるように、ヨーロッパ各国では反EU・反難民を主張する政党が大きな存在感を見せ始めています。そしてその傾向は欧米諸国のみならず世界的な潮流となりつつあり、世界はまさに「分断」の色彩を強めています。

そこで高度情報化・グローバル化で単一化せず逆に多様化する世界を前に、異なる文化を持つ人々が、互いの違いや価値を受け入れ尊重し、新たな関係性を創造する「多文化共生」の考え方がきわめて重要な意味を持つようになっていきます。

昨春秋、「ワンチーム」のスローガンを掲げ、ラグビーワールドカップで史上初のベスト8入りを果たした日本代表チームの活躍は、日本のみならず世界を驚かせました。代表31人中、過去最多の15人を数える外国出身者が、日本生まれの選手たちと文字通り「スクラム」を組んで成し遂げた快挙でした。ニュージーランド出身のリーチ・マイケル主将は「このチームにはダイバーシティ（多様性）がある。色々な背景を持った選手が、お互いに学べる。日本の未来を先取りしている」と語っています。肌や瞳の色の異なる選手たちが、一つのチームとしてつかんだ勝利の意味は、「分断」を深める政治とは違う形で「多様性」の力を世界にアピールしたことにあるのではないのでしょうか。

本学園では「留学支援センター」の設置や、6か国8校と姉妹校・交流校として協定を結ぶなど、積極的に国際交流活動を推進しています。私たちは学生・生徒のグローバルな視点で異文化を深く理解できる力を培い、「多様性」の持つ意義を深く理解し、グローバル化の進む世界で存分に力を発揮していけるよう全力で教育活動に取り組む所存です。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとってすばらしい一年となることをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

心のつながりを大切に、  
支え合う人間に

学園長 浦田 奨

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。また新年の挨拶に先立ち、去年の大型台風で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて去年は「令和」の幕開けに際し、10月には厳かな雰囲気の中「即位の礼」が執り行われました。私たち国民は自国の歴史に思いを致しながら、世界平和の実現を願い、決意を新たにしました。

また日本大学は創立130周年を迎え、さらに輝く未来へ向けて次の一步を踏み出しました。この大きな節目にあたり、私たち佐野日本大学学園は日本大学の付属学校としての決意も新たに、教員研修の充実など教育の質のさらなる向上をはかってまいります。

さて現在、日本は超少子高齢・人口減少社会を迎えています。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では2030年に1億1,662万人、2060年には8,674万人にまで総人口は減少するとされ、経済・社会への深刻な影響が懸念されています。また急速な情報化の進展は、世界中の情報を瞬時に入手することを可能にする一方で、直接的な体験の機会を減少させ、人間関係の希薄化を招いています。この社会の大きな変化は、今を生きる私たちに先行きの見えない不安を感じさせます。

そこであらためて実感させられるのが「人と人との心のつながり」の大切さです。人間は一人で生きていくことはできません。追い詰められたとき、そこから救い出してくれるのは傍に寄り添ってくれる人たちの存在です。過去の大きな災害で、被災地を救ったのは多くの人々の助け合いの心でした。このような時代だからこそ、私たちは皆が寄り添って、支え合いながら生きていくことの意義を再認識しなければなりません。

本学園では「自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく」という、日本大学の教育理念「自主創造」の精神に基づき、学生・生徒の主体的に生きる力を養う教育を実践しています。そしてそこで身につけた主体性は、「他人のために行動し、世界に貢献できる人間」の育成につながるはずで、私たちは、この佐野の地で学んだ若者たちが日本、そして世界の人々と互いに助け合い、支え合いながら逞しく未来を切り拓いていくことを確信しています。

最後になりましたが、皆様の一年が希望に満ちたすばらしいものとなることを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

## 年頭のご挨拶



### 夢に駆ける

学長 佐藤 三武朗

新春の訪れに、私たちの心は躍動します。大地は輝き、小鳥は歌い、花々は清々しく野辺に咲いています。

新年を迎えるに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

皆さんは、それぞれのご家庭において、健やかな新年をお迎えになったことと思います。私も庭に出て、山の端に昇る太陽に手を合わせました。夢に駆ける皆さんの未来を想い、健康で無事故で、学園生活を過ごして欲しいと祈りました。

昨年は、台風19号の襲来で、栃木県も大きな被害を受けました。被災者の方々に、心からお見舞い申し上げます。

皆さんからボランティア活動や、募金活動にも参加するなどのご支援を頂きました。

思えば、我が佐野日本大学短期大学は、多くのフィールドを抱え、多様な専門領域を擁するだけに、皆さんが共に知恵を出し合い、協力し合えば、地域の皆さまの助けになると実感した次第です。

こどもフィールド、社会福祉士・介護福祉士フィールド、栄養士フィールド、英語コミュニケーションフィールド、その他のフィールドは、平素の授業や活動において、市民向けの活動を自主的に行っています。今後、少子化や高齢化が進む中で、本学の重要性がますます再認識されるのではないのでしょうか。

「想う人 考える人 行う人」という学校の指導・教育の方針を念頭に、皆さんには令和の時代を逞しく生きていって欲しいと、心から願っています。真に大事なものは、自ら進んで行動を起こすことです。

そこで思い出すのは、日本大学を創設した学祖山田顕義先生のことです。先生は、恩師である吉田松陰先生から「扇面詩」という詩句を頂き、それを座右の銘として、生涯大事にしました。その初めの行に、「立志」という言葉があります。志を高く掲げて、力強く人生を生きるようにという教えです。学祖は、民法や商法を編纂しました。その甲斐があって、日本が近代国家であることを、世界に知らしめることが出来たのです。

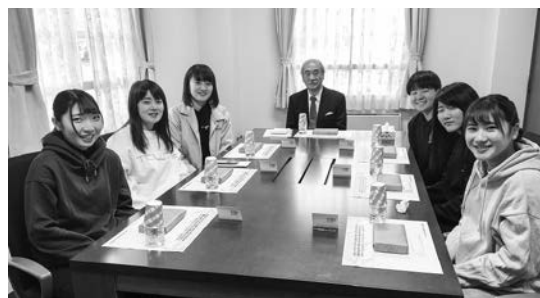
学祖は、夢に生き、夢に駆ける心を持っていました。

新年を迎えて、皆さんも、志を高く掲げて、夢に駆ける心を持って、生きて欲しいと考えます。花香る新春の良き日、どうぞ、それぞれに美しく咲き誇って下さい。

## 学長と学生とのランチミーティング

学長と学生との懇談が、11月14日(木)から始まりました。学長は、できるだけ多くの学生の皆さんとお話する機会を設け、学生の考えや、思い、アイデア、時には悩みや相談等も聴いて、よりよいサノタンを作っていこうと考えています。

今回は最初に学友会の5名の学生が、その後、各フィールドやサークル、米国短期留学した学生たちが、サノタンのよさや学校側への要望など、忌憚のない意見を学長に聴いていただき、とても有意義な時間を過ごせたようです。この企画は今後も続き、多くの学生が学長と懇談していく予定です。



## 災害ボランティア活動

佐野市は台風19号によって大きな被害を受けました。本学の学生やそのご家族のなかにも、被災された方がいらっしゃいました。そうしたなか、数多くの有志の学生が教職員と一緒に、佐野市や近隣の自治体の災害ボランティア活動に参加してくれました。皆さんの活動に対して、被災者の方から御礼や労いのお言葉も頂戴しています。また、日本ソーシャルワーク教育学校連盟様からは、本学にボランティア活動用品の支援をいただきました。



第30回

# MIKAMO SAI みかも祭

## はじけるSANOTAN令和最初の1ページ

11月2日(土)・3日(日)の2日間にわたり、第30回みかも祭を開催しました。

今年のテーマは、「はじけるSANOTAN令和最初の1ページ」でした。台風19号の影響がまだ残る中、開催も危ぶまれましたが、このみかも祭が何らかの支援につながればという思いで開催しました。おかげさまで2日間天候にも恵まれ、お客様も学生も先生方も、みかも祭を楽しんでいただき、サンタンが笑顔で溢れました。1日目は、オープニング・アピールタイムで各出店団体の意気込み宣伝を行い、これを皮切りに「SEMサークル×大栗保育園」のダンスパフォーマンス、「ハンドベルサークル」の演奏、「アンパンマン」のダンス&シング、「フラサークル」、「m & m'」のダンス、佐野日本大学中等教育学校和太鼓部による勇壮な演奏、「サノタンクワイヤー」のコーラスなどの発表がありました。また、会場内には、群馬自動車大学校様のご協力で、スーパーカーの展示もあり、運転席に乗り、記念撮影をすることもできました。

2日目も、快晴の下、前日に引き続き「フラサークル」による華麗なフラダンスで始まり、「MAFH」によるダンス&シングの後、お楽しみのお笑いライブが行われました。今年は、「カミナリ」「ゴー☆ジャス」「お見送り芸人しん

いち」による爆笑ライブが企画され、会場が大いに沸きました。その後も佐野日本大学高等学校吹奏楽部の演奏、「紀音(のりお)」のピアノ弾き語り、ファッションショー、「軽音部」のバンド、「Jazz funk」のダンスなどが発表されました。そして、今年のフィナーレとしてBINGO大会が行われ、素敵な商品をゲットしようと参加者全員で盛り上がりました。会場内には、とちのみ会様、カレッジ佐野様、ポーラ化粧品様、アドバンスカラーセラピー本部様のご協力を得、新たにお楽しみいただけるコーナーが設けられ、多くの皆様に喜んでいただきました。

たくさんのお客様とはじける笑顔を見ることができたのは、みかも祭を陰ながら支えてくださった皆様のおかげです。協賛企業や地域住民の皆様のご理解とご支援があり、みかも祭を無事成功させることができました。実行委員一同、心よりお礼申し上げます。

なお、2日間にわたり皆様方から寄せられました台風19号関連の義援金につきましては、令和元年11月20日(水)に佐野市災害ボランティアセンターにお届けさせていただきました。

ご協力ありがとうございました。

(みかも祭実行委員会)





SEMサークル × 大栗保育園



佐野日本大学高等学校 吹奏楽部



佐野日本大学中等教育学校 国際交流センター  
「服のチカラ」プロジェクト



佐野日本大学中等教育学校 和太鼓部

## 第10回 SGC 佐野ガールズコレクション

11月23日(土)イオンモール佐野新都市店において、第10回SGC佐野ガールズコレクションを開催しました。第1部では、専門店街の秋冬ファッションの紹介を本学学生がモデルとなり行われました。第2部のSanotanイベントでは、フラダンスサークルによる披露と民族衣裳ショーが日本人学生と留学生によって今年初めて行われました。大勢の観客がいらっしゃる中、華やかな衣裳でランウェイに登場し、会場は大いに盛り上がりました。



## 道の駅「どまんなかたぬま」との連携事業

### ～災害復興プロジェクト with オレンジリボン～

11月30日(土)、社会福祉士・介護福祉士フィールドの学生は、「がんばろう佐野!災害復興プロジェクト with オレンジリボン」をテーマに、復興支援活動と児童虐待防止・オレンジリボン運動を実施しました。災害ボランティアのチラシやオレンジリボンの配布、募金活動、ビーズを使った簡単なキーホルダー作成、ステージではお子さんに人気な曲を手話歌で披露するなど、ご家族皆さんに興味をもっていただける内容にしました。多くの方々に参加していただき、笑顔あふれる時間となりました。



### ～クリスマスワークショップ～

12月7日(土)、こどもフィールドの学生によるクリスマスワークショップを開き、親子やご夫婦などでクリスマスリースづくりを楽しんでいただきました。

たくさんの方々に参加していただいた他、1年ぶりの嬉しい再会もありました。参加して下さった皆様からは「素敵なイベントでした」「学生さんが手伝ってくれ、おしゃべりしながら楽しい時間を過ごせました」など、ありがたい言葉と笑顔をいただきました。その笑顔や感想は学生たちにとって一足早いクリスマスプレゼントになりました。



### 学報編集委員

久保 由佳、大塚 登、岡泉 志のぶ、中島 佳子、田村 田、山崎 敬子、戸井田 陸美、齋藤 彩